

## 嘉手納基地における騒音軽減のための取組み



米空軍F35戦闘機



米空軍F16戦闘機



米空軍F15戦闘機



米空軍F22戦闘機

沖縄を含む日本の周辺地域では、各国が軍事力の強化を図り、軍事活動が活発化してきています。周辺国の航空戦力については、新型の戦闘機や爆撃機、無人航空機の強化が図られています。

このため、嘉手納基地は、日本と周辺地域における空の安全を確保し、住民の方々の平和な暮らしを守るため、任務遂行能力を維持するとともに、日々様々な訓練を行っています。

このような訓練では、騒音を生じるなど、地域住民の方々の生活へ少なからぬ影響が生じるため、嘉手納基地では、これを抑制するための取組みを行っています。

本資料では、嘉手納基地における騒音軽減のための取組みについて、特に飛行ルート工夫を中心に説明をしています。





## 1-1. 戦闘機の旋回地点

周辺住宅地の騒音を軽減するために、ローパス・タッチアンドゴー訓練において、旋回地点を可能な限り弾薬庫地区及び洋上とすることにより、旋回時の騒音を抑制しています。





## 1-2. 戦闘機の旋回地点（反時計周り）

周辺住宅地の騒音を軽減するために、ローパス・タッチアンドゴー訓練において、旋回地点を可能な限り基地上空とすることにより、旋回時の騒音を抑制しています。





## 2. 離陸時の飛行ルート

東側への離陸に際し、金武湾に直進し洋上に最短距離で出ることが徹底することにより、居住地域での旋回を抑制しています。



※以上の飛行ルートに係る取り組みについては、基本的な努力を示すものであり、飛行安全等の必要から異なるルートを飛行する場合があります。